

令和4年度ピアノ公開レッスン

6月29日(水)に、松本 和将先生(ピアニスト、名古屋音楽大学ピアノ演奏家コース客員准教授)をお招きしてピアノ公開レッスンを行いました。前半は「ショパンの人生とそれが楽曲に与える影響について」のテーマで、先生の素敵な生演奏を挟みながらの講演を聴き、贅沢なひと時を過ごしました。また、後半では2名の代表生徒の公開レッスンをしていただき、ピアノを演奏する上での様々な課題を解決するための貴重なレッスンとなりました。

13:20～ レクチャーコンサート 「ショパンの人生とそれが楽曲に与える影響について」

♪ 演奏プログラム ♪

幻想即興曲

練習曲 Op.25-1《エオリアンハーブ》

練習曲 Op.10-4

練習曲 Op.25-11《木枯らし》

バラード 第4番 Op.52



♪ レクチャーコンサートでは終始感動し続けていました。ショパンが歩んだ人生の間に書かれたさまざまな楽曲を聴いて、さらにその楽曲に込められたショパンの思いや情景についての理解が深まりました。

♪ ショパンの生涯を説明して頂きながら曲を聴いたら、イメージが湧きやすくて、ショパンが作曲をしている時の心情がよく理解できた気がします。先生の演奏は美しい音、柔らかくて優しい音、力強い音や悲しい音などいろいろな音があって曲に引き込まれました。

♪ 「なるほど」と思った新たな視点は、「ショパンがジョルジュ・サンドに出会って心の安定を得たからこそ、内面にあった不安や苦しみを表現できる。」というお話で、私は「苦しい、不安」といった曲調は作曲者のその時の心情そのまま

まだと思っていたけれど、そうではないかもしれないという視点がとても興味深かったです。先生の演奏では幻想即興曲の初めの音から衝撃的で、音に芯があってびっくりしました。歌う部分の音が美しすぎて音が目に見えるようでした。

♪ レクチャーコンサートでは、先生の音が澄んでいて、すべての音に中



身があるという感覚で身体の内側から振動するようになりました。そしてとても自然な呼吸の中で違和感なく流れているのが素敵で、こんな演奏に近づきたいと思いました。また、自然な演奏という点で、自分のイメージする理想の演奏と作曲家の特徴を合致させるというのが、とても重要であることがわかりました。 (生徒の感想より)

14:20～ 公開レッスン

平林 妃夏 (3年) リスト作曲 超絶技巧練習曲第10番

末永 咲優 (3年) ショパン作曲 エチュード Op.10-10

バッハ作曲 平均律クラヴィーア曲集

第 I 巻第15番



♪ 公開レッスンではたくさんの学びがありました。骨盤から動きが生まれるという先生の言葉を聴いて骨盤の意識と腕の動かし方を先生がおっしゃったようにしてみたら少し重心が下に行き、自然と落ちた音のように弾くことができました。自分の演奏の癖や音色を変えていくためには時間がかかりますが、少しでも良い音色で演奏できるようになるために練習し、人にもっと感情や風景を伝えられるピアノを演奏したいです。

♪ ミスタッチを無くすには正確な音を何度も聴いて、体に覚えこませる。一度テンポを落として丁寧に振り返る必要がある。体が動いてしまうことは音がしっかり響かないことに繋がってしまうので体幹は常に意識しなければならないなど、たくさんの課題が見えました。

♪ レッスンでは体幹をしっかりとつこと、骨盤を意識することでその音に歌心をのせることが大切。また、表現するために和声进行分析することの大切さ、曲を弾く前に風景を思い浮かべることや、音を弾く時は客席など遠くにある音を聞くことが大切だと学びました。

♪ 公開レッスンでは演奏の根本的な打鍵の仕方がしっかりしていることが大前提で、腰→肩甲骨→肘→手首→第3, 2, 1, 関節それぞれをどのように、どれくらい動かしたいか明確に決めて完璧に打鍵することが確実に聴衆へ届く演奏につながることを実感しました。また、大きな部分での多彩な表現を描いておくことで細かい部分が見えてきて、縦に重なっている音の一つ一つの表情や和声の変化を伝えることができるようになると思います。今回の公開レッスンでは演奏の自然さと音楽の変化について特に学びました。それらを踏まえて今後、より理想的で相手に届く音楽を目指そうと思います。 (生徒の感想より)

